薬剤師介入による患者のスボレキサント併用禁忌薬に対する認識度調査

神埼薬剤師会薬局

〇花房 充洋、淀川 裕行、重冨 泰男、藤田 紀弘、山田 和子

【背景】

スボレキサント（ベルソムラ®）は依存性がなく耐性が付かない睡眠薬として発売された。この薬はCYP3Aにより代謝されるためその強力な阻害薬とは併用禁忌である。現在は患者の併用薬を確認するために本人のお薬手帳を用いている。そのため、お薬手帳を忘れた患者に対してスボレキサント又はその併用禁忌薬が処方されたとしても私たちはそれらの併用を見逃す可能性がある。

【目的】

上記より患者が薬剤師にこれらの処方薬どちらか一方を使用していると伝えることでそれらの併用を回避できる可能性がある。本研究では確認する薬をクラリスロマイシンのみに絞る。そして薬剤師が指導する事によりスボレキサントには併用禁忌薬がある事、そしてその一般名を憶えている患者が有意に増加するのか検討を行う。

【方法】

1. 5/22から10/28に来局したスボレキサントが処方されている患者、またはその患者の処方薬を受け取りに来た人物にこの薬には併用禁忌薬がある事、そしてその一般名を確認する。
2. 全指導対象者に対してクラリスロマイシンの事を口頭か口頭+文章により指導する。
3. 1ヶ月以上経過した後に上記2点を再び確認する。
4. 指導前後におけるそれぞれの質問に対する回答をYes/Noの2択により評価する。
5. 指導対象者が本人である事例のみを抽出し、介入前後において禁忌薬の有無及びその一般名を覚えている人数、そして指導法の違いによるそれらが改善した人数に有意な差があるのかについてカイ2乗検定を用い検討する。

【結果】

全指導対象者は68名である。その中で対象者が本人である人数は60名である。その内訳は口頭指導が27名、文章指導が24名、指導方法無記入が8名、処方中止が1名である。まず、介入前後において認識が改善した人数の変化を検定する。禁忌薬があることを覚えている人数には有意な増加があると言えた(p＜0.01）。一方でその薬の一般名を覚えている人数には有意な増加があるとは言えなかった(p=0.0652)。次に、それぞれの指導方法によりどちらか一方でも認識が改善した人数の差を検定した。その人数には有意な差があるとは言えなかった(p=0.2752)。

【考察】

今回の研究結果から以下の事が分かる。まず、薬剤師が指導することにより患者からの訴えを元に薬剤師が指導対象薬の併用を回避する事例数が現在より優位に増加する可能性がある。一方で投薬を受ける際に患者自身がそれらの併用に気が付く事例数には変化が見られない可能性がある。次に、指導方法に関係することなく対象薬同士の併用を回避できる可能性がある。以上を踏まえて、両者の併用を回避するためには薬剤師の介入が効果的である。しかし指導を行ったとしても服薬指導の際にどちらか一方の使用を薬剤師が確認することが必須である。そして、指導の際には薬局独自の資材を用いて指導することが可能であるという結論に至る。

キーワード

介入研究　服薬指導　スボレキサント　ベルソムラ®　併用禁忌薬